

《総説》

映画の喫煙シーンは タバコを吸う子どもを増やす

松崎道幸

日本禁煙学会理事

はじめに

喫煙は毎年世界で600万人、日本で10数万人を早死させる予防可能な最大の健康危険要因である。喫煙は、日本人男性の平均余命を2年近く短縮させており、第2位の高血圧(約1年)をはるかに上回る最大の早死原因となっている¹⁾。喫煙はニコチンに対する薬物依存であるから、一度喫煙常習となると、それから抜け出すことは容易でない。したがって喫煙率を減らすためには、子どもと若者の喫煙開始を阻止する「一次予防」が極めて重要である。

子どもと若者が喫煙に手を出す要因は複合的である。自身の性格、親、同胞、友人の喫煙行動、学校や地域社会の喫煙容認度、自身の家庭の社会経済的条件、購入の容易さ、タバコ価格、タバコの宣伝販促活動、受動喫煙防止法令の有無等多くの因子が絡んでいる。

近年、映画、テレビ、漫画などの喫煙シーン曝露と子どもの喫煙開始リスクに関する調査研究が進み、映画の喫煙シーンを見た頻度とその後の喫煙開始リスクに密接な関係のあることが明らかにされた²⁾。

また、タバコ産業は映画の喫煙シーンが、タバコ製品の販売促進に大きな効果があることを認識し、長年、映画へのタバコ製品と喫煙シーンの増加を、大金をつぎ込んで行ってきた(プロダクト・プレイスメント:PP)¹⁰⁾。またCSR活動を通じて、映像作家、文化人との関係を強化し、喫煙シーンのある映像作品作りが「自主的に」行われる環境を作り出してきたと思われる。

本論文では、映画の喫煙シーンの問題を、子どもの喫煙開始に与える影響、タバコ産業のPP活動の面から解明し、映画の喫煙シーンへの曝露から子どもを守る方策について論ずる。

1 映画の喫煙シーン視聴が 子どもの喫煙開始の44%の原因 ～欧米における最新の調査研究結果～

要旨

1. タバコは先進国の早死と健康寿命短縮最大の原因である。
2. 映画の喫煙シーンを見た子どもほど、タバコに手を出すようになる。
3. アメリカでは、子どもの喫煙開始の44%が映画の喫煙シーンが原因。
4. 映画の喫煙シーンを減らすことが、子どもの喫煙開始ひいては予防可能な早死を減らす重要対策である。

Lancet論文

2003年にダートマス医科大学小児科の研究グループは、映画の喫煙シーンが10歳から14歳の子どもの喫煙開始の主要原因となることを証明した調査データを発表した²⁾。研究チームは、それまで1回も喫煙したことのない2,603名の子ども(10～14歳)を長期間追跡調査した。まず、喫煙開始に影響する可能性のある様々な自己認識や生育環境など調べておき、13～26か月後に彼らが喫煙を始めたかどうかを再調査した。

結果の解析に際して、調査グループには、どの子どもがタバコを吸い始めたかをわからないようにした。子どもの喫煙開始に影響する因子を調整して喫煙シーン曝露の影響を計算した。調整された諸因子は以下である。

- ・ 学年
- ・ 性別
- ・ 所属学校
- ・ 喫煙する友人の有無
- ・ 兄弟姉妹の喫煙の有無

- ・ 親の喫煙の有無
- ・ タバコの宣伝・販促に対する受容度
- ・ 学業成績
- ・ 刺激や危険を求める性向の有無
- ・ 反抗的な性向の有無
- ・ 自己評価の度合い
- ・ 親の学歴
- ・ 親の厳しさの度合い
- ・ タバコを吸ってはいけないという親の態度に対する反応

映画の喫煙シーン視聴頻度と喫煙開始率

ダートマス大学の研究者グループが、13～26か

喫煙場面を見た子どもほどタバコに手を出す

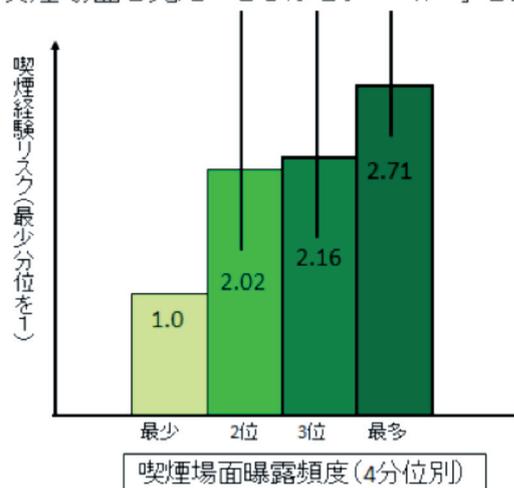


図1 映画の喫煙シーン曝露と喫煙開始(経験)率 (このグラフは同研究チームのサージェント博士のPPT³⁾から作成)

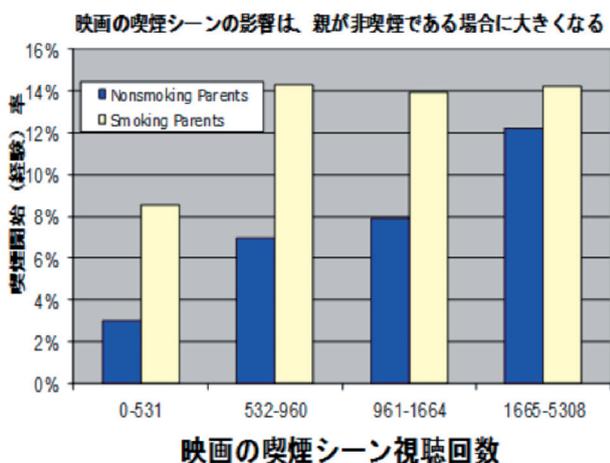


図2 喫煙シーン視聴回数別喫煙開始率。親の喫煙習慣別

月に再調査すると、対象の子どもの10%が喫煙を始めていた。

前述の多くの因子の影響を調整した結果、映画の喫煙シーンを見る回数が最も多かったグループは、最も少なかったグループの3倍近く喫煙を始めていた。映画の喫煙シーン視聴回数(4分位)と喫煙開始(=経験)率の間には、正の相関がみられた(図1)。

親の喫煙習慣の有無別にみると、映画の喫煙シーンの影響は、タバコを吸わない親を持つ子どもの方が相対的に強くなっていた(図2)。親が非喫煙者の場合、映画の喫煙シーン視聴回数が最多のグループの子どもの喫煙開始率は最少のグループの子どもの4.1倍だったが、喫煙者の親を持つ子どもでは、1.6倍だった。

親が非喫煙者である場合(青グラフ)、映画を見た回数で4グループに分けたうちの最少グループの子どもたちでは、約3%が喫煙を始め、最多グループの子どもたちは12%が喫煙を始めた。これは、タバコを吸う親を持つ子どもとほぼ同じ頻度だった。

喫煙開始と親のしつけ(図3)

親のしつけの態度を「放任」、「命令的」(子どもの言い分を聞かない)、「受容的」(子どもの言い分を聞き教諭する)、「受容+命令的」(子どもの心に寄り添うが、社会ルールは守りなさいと言うしつけ態度)に分けて解析すると、喫煙シーン曝露が最少グループでは、しつけの態度にかかわらず、喫煙開始率は低かった。どのしつけ群においても、子どもの喫煙シーン曝露が増えると喫煙開始率も増加して

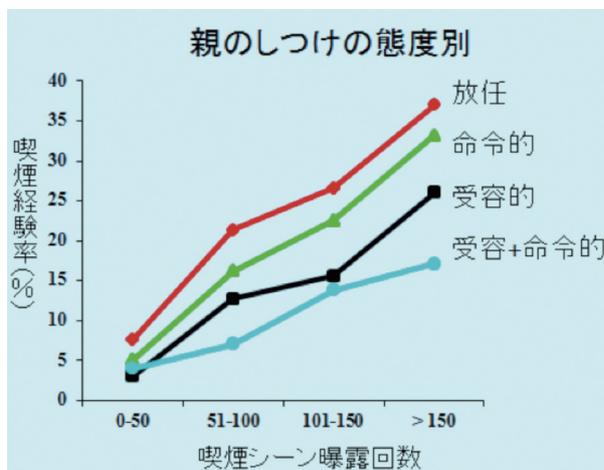


図3 喫煙シーン曝露回数別喫煙開始率。親のしつけの態度別

いた。

つまり、子どもの心に寄り添うが社会ルールは守れと言うしつけ態度の親(受容+命令的)であっても、その子どもは映画の喫煙シーンを見るほど、タバコに手を出すようになっていたが、放任主義的な家庭であっても、映画の喫煙シーンを見ない子どもは、ほとんどタバコに手を出していなかった。

喫煙開始と学業成績(図4)

学業成績にかかわらず、喫煙シーン曝露が少ないほど、喫煙開始率が低かった。この傾向は、平均かそれ以上の成績の子どもで著明だった。

喫煙開始率と性格(図5)

刺激を求める性格(risk taking)の高低別にみても、喫煙シーン曝露が減るほど、喫煙開始率が低下していた。

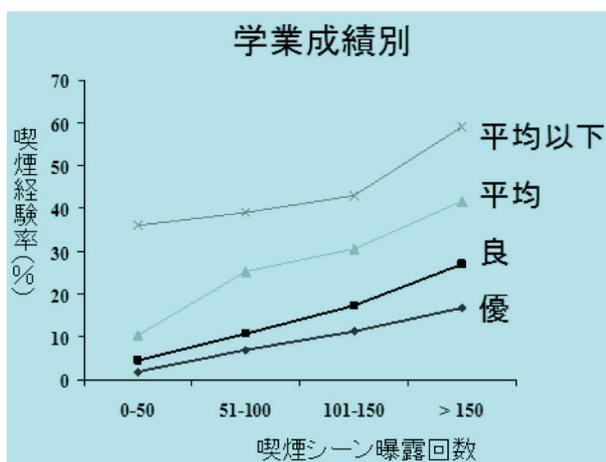


図4 喫煙シーン曝露回数別喫煙開始率。学業成績別

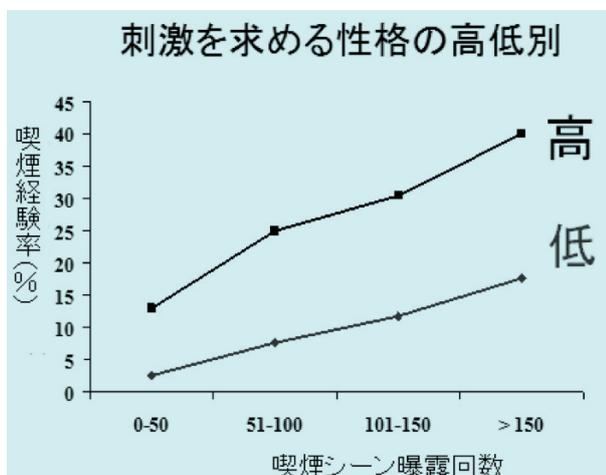


図5 喫煙シーン曝露回数別喫煙開始率。刺激を求める性格の高低別

映画の喫煙シーン曝露が米国の子どもの喫煙開始の何%の原因となっていたか(図6)

Lancet論文を発表したダートマス大学の同じ研究者チームは、2005年に、ニューイングランド地域で行われた断面調査⁴⁾の結果が、米国全体に当てはまるかどうかを検証するために、全米から6,500名を無作為抽出した追跡調査を行った⁵⁾。この大規模全国調査の成績は、ニューイングランド調査と基本的に一致した。

この調査結果から、映画の喫煙シーン曝露が米国全体の子どもの喫煙開始に対する寄与率を計算したところ、子どもの喫煙開始の44%が映画の喫煙シーンを見たことによって引き起こされたことが分かった⁶⁾。

この寄与率は、従来から存在するタバコのCMの寄与率と同じかそれを上回ると考えられた。

米国全体では、毎年39万人の子どもが映画の喫煙シーンを見たために喫煙を開始しており、そのうち12万人が喫煙のために早死すると推計された。

また、子どもたちの見る映画の半数が未成年向け映画であるため、未成年向け映画の喫煙シーンが原因となって、毎年20万人の子どもが喫煙者となり、そのうち6万人が将来喫煙のために早死するという試算結果になった。

以上のような理由から、喫煙シーンのある映画をR指定映画(未成年者は保護者との同伴でなければ見ることができない。米国)とすることが、多くの命を救う対策となると述べている。

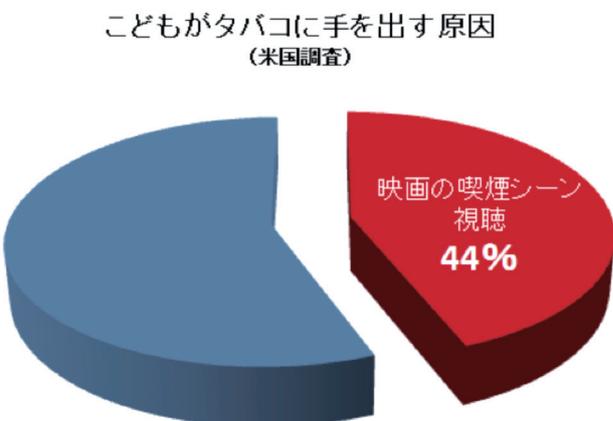


図6 米国の子どもの喫煙開始に対する映画の喫煙シーン視聴の寄与率

欧州6か国でも同様の結果(図7)

ドイツ、イタリア、イギリスなど欧州6か国でも同様の調査が行われたが、やはり、映画の喫煙シーン曝露が増えるほど、子どもの喫煙開始率が有意に増加することが明らかになった⁷⁾。喫煙シーン曝露最高群は最低群の2倍から数倍の喫煙開始率だった。

喫煙シーンのある映画を「R指定」にする必要

これまでの検討により、欧米において、子どもが喫煙シーンをたくさん見れば見るほど喫煙開始率が高まる「量反応関係」が明らかになった。喫煙シーンが喫煙開始の44%の原因ということは、映画の喫煙シーン曝露をゼロにできたなら、子どもの喫煙開始が半減することが期待される。したがって、喫煙シーンのある映画を「R指定」(米国。子どもの視聴

を禁止あるいは、保護者同伴という条件付きで許可等)とする対策が有効であろう。

さらに、映像作品を制作するにあたっては、喫煙シーンが子どもたちの喫煙開始に想像以上の影響を与えることを念頭に置く必要がある。

子どもの喫煙開始と映画の喫煙シーンの関連については、カリフォルニア州立大学のグランツ教授によるSmoke Free Moviesのホームページ⁸⁾に多くの有用な情報が掲載されており参考になる。

映画の喫煙シーンは再び増加中

テレビ番組では、しばしば、画面に映り込んだペットボトル飲料やコーヒーショップの看板、自動車のナンバープレートなどにぼかしが入る。銘柄が特定されるとクレームが来るからである。

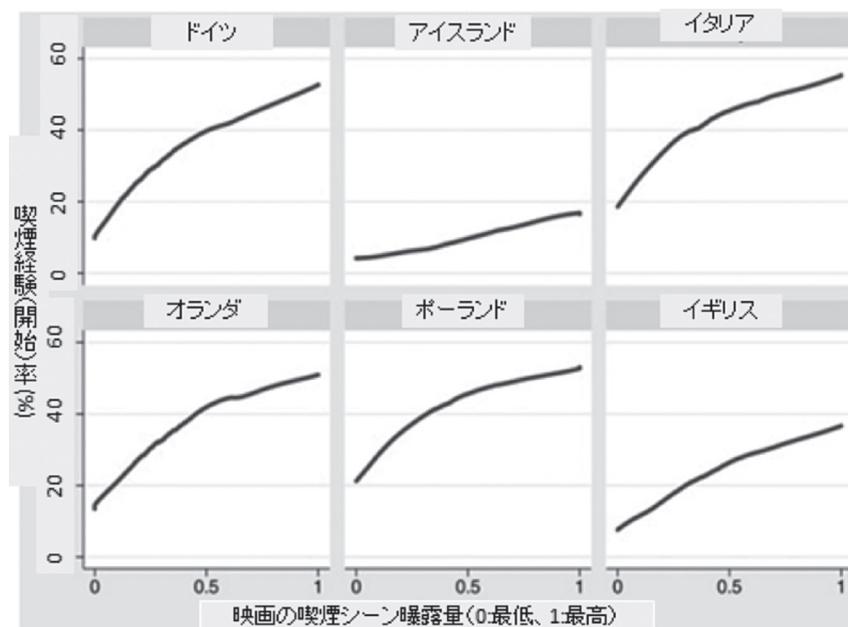


図7 映画の喫煙シーン曝露頻度と子どもの喫煙開始率。欧州6か国

2 映画におけるタバコ産業の プロダクト・プレイスメント (PP) の歴史 ～映画の喫煙シーンの裏にタバコマネー～

要旨

1. タバコ産業のプロダクト・プレイスメントが映画の喫煙シーンを増やしてきた歴史がある。
2. タバコ産業のプロダクト・プレイスメントの禁止が必要。
3. タバコ産業のCSR活動も、映画の喫煙シーン増加の一因と考えられる。

プロダクト・プレイスメント (Product Placement) とは広告手法の一つで、映画やテレビドラマの劇中において、役者に特定の商品絡ませるやり方。現在はCM飛ばし等の流行により、テレビ番組だけでなくCMの効力そのものが急降下している為、新たな宣伝手段として日本でもようやく活発化し始めた。P.P. (もしくはPP) とも呼ばれる。(Wikipedia: 2013年9月12日にダウンロード)

それでは、映画の中で銘柄が分かる形で特定の商品が露出している場合はどうなのだろうか？ その場合はたいていその映画のスポンサーの商品である。しかし、エンドロールを見ても、その会社名がみつからないことがある。これがPPの一つの形である。

タバコ産業は、公衆衛生専門家よりもずっと先に、映画の喫煙シーンすなわちPPが子どもにタバコを始めさせる上で極めて効果的であることを知っていた。

その証拠に、映画の喫煙シーン頻度が1950～60年代にピークを形成していたことが挙げられる(図8)⁹⁾。

タバコ会社の秘密文書:ランボーやロッキーの喫煙シーンに50万ドルの報酬

しかし、その後タバコ産業が多額の資金を出して映画にPPを行うことが社会的批判的となり、1980年代まで映画の喫煙シーンは徐々に減っていった。

しかしPPはその後再び増加をはじめ、1998年のPP禁止裁定にもかかわらず、映画の喫煙シーンはさらに増え続けて、2000年代には1950年代のレベルに戻ってしまった。

表1に、タバコ産業の映画におけるPPの歴史を示した¹⁰⁾。タバコ産業にタバコによる健康被害の補填を求めた裁判の末結ばれた1998年のMaster Settlement Agreement*は、タバコ産業に巨額の賠

償金を払わせただけでなく、タバコ産業の内部文書の公表も義務付けたため、膨大な「秘密文書」が開示され、PP活動の実態も明るみに出されるようになった(図9)。表1の事項のいくつかは、この開示によって明らかにされた。

* Master Settlement Agreement: 1998年米国でタバコによる超過医療費請求と製造物責任訴訟を取り下げる代わりに、広告販促活動の制限、25年間に2,000億ドル余の資金提供などを4大タバコ会社に認めさせた合意。

Mekemsonら¹⁰⁾は論文の最後で、映画におけるタバコ産業のPPの役割を解明し、映画の喫煙シーンをなくす方策の必要性を強調している。

…タバコ産業は、相当以前からハリウッド映画にタバコを持ち込む活動を続けている。

タバコ使用の「社会的受容度」を上げ、タバコがよい習慣であると植え付ける上で、映画は、とりわけ若者と子どもに強い力を持っているため、タバコ産業は、それを利用するための活動を続けている。

1990年代以降、映画の喫煙シーンと特定ブランドの露出が増えてきたことは、自主規制を行っているという彼ら自身の言説に反して、タバコ産業がそのような活動を引き続き行っていることを示すものである。

印刷メディアを通じた子どもへの販促活動は行わないとした自主規制コード条項の例と同じく、

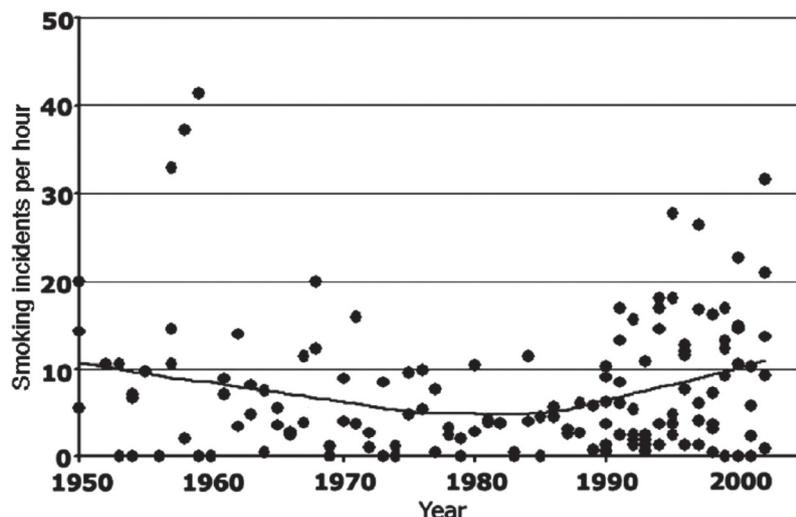


図8 映画の喫煙シーン頻度(上映1時間当たり)。1950年代以降漸減していた頻度が1980年代から漸増に転じ、2000年代には1950年代のレベルに戻った



**ASSOCIATED
FILM
PROMOTIONS**
An AFP, Inc. Company

June 14, 1983

Mr. Sylvester Stallone
1570 Amalfi Drive
Pacific Palisades, CA 90272

Dear Mr. Stallone:

In furtherance of the agreements reached between yourself and Associated Film Promotions, Inc. representing their client Brown & Williamson Tobacco Corp. (B & W), I wish to put in summary form the various understandings and details regarding B & W's appearances and usage in your next five scheduled motion pictures. B & W is very pleased to become associated with the following schedule of films and to have you incorporate personal usage for all films other than the character of Rocky Balboa in Rocky IV, where other leads will have product usage, as well as the appearance of signage (potentially ring).

The following is the current list of the next five (5) minimum films for B & W's appearance. It is understood that if production commitments change the order or appearance of any of the group of films to be released, B & W will appear in a substituted film. The only non-appearance for B & W will be by mutual consent of both parties in which case another Sylvester Stallone movie will be arranged for substitution.

The initial schedule of films is:

- | | |
|------------------------------|---------------------|
| A). <u>Rhinestone Cowboy</u> | D). <u>50/50</u> |
| B). <u>Godfather III</u> | E). <u>Rocky IV</u> |
| C). <u>Rambo</u> | |

In consideration for these extensive film appearances of B & W products, Brown and Williamson agrees to forward to Robert Kovoloff and Associated Film Promotions, Inc. their initial deposit to you of Two-Hundred-Fifty-Thousand Dollars (\$250,000.00). This represents a fifty percent (50%) deposit of the total financial commitment by B & W. The subsequent Two-Hundred-Fifty-Thousand Dollars (\$250,000.00) is agreed to be forwarded in five (5) equal payments of Fifty-Thousand Dollars (\$50,000.00) each payable at the inception of production of each participating film.

On behalf of our client Brown & Williamson Tobacco Corp., we wish to thank you for this long term commitment, and look forward to each release from the excellent schedule of films that they will participate in.

Very truly yours,

James F. Ripslinger
Senior Vice President

JFR:jag

✓cc: James Coleman, Brown & Williamson Tobacco Corp.

10100 Santa Monica Blvd. • Suite 495 • Century City, California 90067 • (213) 553-4522



図9 1983年6月 B&Wがシルベスター・スタローンに5本以上の出演映画で自社製品を使う場面を入れたなら50万ドル払うとの契約が成立した時の手紙 (B&W内部文書)¹¹⁾

タバコ産業は自分で決めたルールを有名無実にする策動を行っていると言える。

タバコを奨励する映画シーンをなくする何らかの対策が講じられなければ、映画はタバコを奨励してタバコ産業の利益を増やす最上のメディアの

一つとしてあり続けるだろう。

映画に喫煙シーンあるいはタバコ製品が映っている時、その裏にはタバコ産業から多額の利益提供が映画製作会社や監督になされている可能性が高いのである。

表1 映画に対するタバコ産業のプロダクト・プレースメントの歴史¹⁰⁾

1972	Production社がRJRに「映画はテレビや雑誌よりもCMに適している。なぜなら、観客がスポンサーの存在に気付かないから」映画に製品を出演させること(プロダクト・プレースメント:PP)を進言。
1978	フィリップモリスが映画にPPを行う件でCharles Pomerance氏と契約。
1979	Brown and Williamson (B&W)社がAssociated Film Promotions社に、映画に自社の製品をPPさせることを依頼。
1979	フィリップモリスがマルボロをスーパーマンIIにPPするために資金支出。
1980	RJRがテレビや映画会社とPP、具体的には、制作現場の責任社員に自社の製品を無料提供したり、スターにRJR製品を使っていることを全国的なメディアを通じて広める事業についてRogers and Cowan社と契約。
1982	Rogers and Cowan社がRJRに、1万ドルでショーン・コネリー等に007シリーズのリメイク版Never Say Never Againの中でキャメルやウinstonを吸わせる事に成功したと報告。
1983	春、B&Wは、3000映画館でタバコの宣伝を上映するキャンペーン実行。7月には、ボストンで子どもの鑑賞可能(G-rated)ディズニー映画「白雪姫」上演時にKoolのCMを上映。禁煙団体から激しい抗議。6月 B&Wがシルベスター・スタローンに5本以上の出演映画で自社製品を使う場面を入れたなら50万ドル払うと申し入れ、契約成立。
1983	秋、B&WはAssociated Film Promotions社と、PPの有効性に関する評価を開始。
1984	B&WはPPと映画館におけるCMを中止。
1984	20世紀フォックス Licensing and Merchandising社が、1作品あたり2万~2万5千ドルでPPを行うタバコ会社を募集。
1988	フィリップモリスが、ジェームズボンド出演 License to Killで、ラクをPPし、日本でのプロモーション活動を行う権利を35万ドルで入手。
1989	フィリップモリスのマーケティング調査文書:「映画とテレビにこそ紙巻タバコの力強さとポジティブなイメージを人々に焼き付ける力がある」
1989-90	Thomas Luken's議員の「Transportation, Tourism and Hazardous Materials」委員会が、PPに関する公聴会を行う。
1990	連邦通商委員会(FTC)がタバコ会社のPPに対して調査を開始
1990	RJR インターナショナルが海外でのRJR製品について、Rogers and Cowan International社とPP契約を締結。
1990	タバコ会社各社がタバコの広告販促自主コードを改訂して、PPの自粛を決定。
1991	1960年代から下がり続けていた映画の喫煙シーン頻度が、再び増加。
1992	ハリウッドのUnique Product Placements (UPP)社がアメリカンタバコと交わした契約を製品プロモーションでなく抑制的方向に修正。
1996-97	FTC(連邦通商委員会)は、「葉巻会社が製品をセレブに配ったり、テレビや映画でのPPを行うため費用が1996-97期に倍以上に増えた」と報告。
1998	葉巻製造業協会が映画やテレビでの葉巻のPPの自粛を発表(禁止ではない)。
1998	Master Settlement Agreementにより、タバコ会社のPP活動が禁止される。
2000	映画での喫煙シーン頻度が1960年代を上回る。
2001	1990年代の映画の喫煙シーンの80%がフィリップモリスのマルボロであるとの調査報告。タバコ会社のPP自粛宣言前よりも、トップスターが銘柄名の分かる喫煙を行うシーンの出現回数が増加していた。

日本のテレビドラマの喫煙シーン

現在、映画やテレビだけでなく、インターネット上の映像作品でも喫煙をはじめとしたタバコ製品使用シーンが見られる。

黒山らは、日本のテレビドラマにおける喫煙シーンの量を調査し、全放映時間の7.4%が喫煙シーンであるドラマがあること、また主人公の医師が喫煙する場面のあるドラマのスポンサーにJTがなっていたことを報告した(表2)¹²⁾。

国際条約違反であるタバコ会社の社会的責任(CSR)活動も、映像メディアの喫煙シーン増加の一因と考えられる

映画に喫煙シーンが増えるほど、子どもたちがタバコに手を出すようになることがわかっているから、タバコ会社は、喫煙シーンを増やすために、映像メディアに公然とあるいは秘密裏に直接金を渡して工作するであろうことは想像に難くない。それだけでなく、様々な形でタバコ産業とつながりのある映画、テレビドラマ、漫画、アニメーションなど映像作品の制作者が「自発的」にタバコ使用シーンを作品に織り込むようになり、結果的にPPの効果をもたらす作品が増える可能性のあることも十分予測できる。

この意味で、タバコ産業の社会的責任(CSR)活動は、PPを増やすための、映像作家や文化人に対

する間接的な利益提供ルートとなっている可能性がある。なぜなら日本のタバコ会社JTのCSR活動は、日本禁煙学会のホームページに示すように、28分野の多岐にわたり、多くの芸術家、作家、文化人を巻き込んで行われているからである(文末資料参照)¹³⁾。ちなみに今年度のJTフォーラムと称した講演会では、里中満智子、島田雅彦、阿刀田高、ジェームス三木、浅田次郎、江上剛等の有名作家が演者となっている。JTのイベントに参加する有力な文化人が増えれば増えるほど、タバコに肯定的な創作活動あるいは発言が増えるであろうことは容易に想像できる。その結果映像メディアにおける喫煙シーンが増加する可能性があることを否定することはできないだろう。

JTのホームページからアクセスできる事業・イベント・CSR活動はすべてタバコ規制枠組み条約(FCTC)第13条違反であり、政府には直ちに禁止を実行させる国際的義務があることを確認しておきたい。

FCTC違反であるJTのCSR活動が映画の喫煙シーン増加をもたらしている可能性があるのだから、子どもの喫煙開始を予防するためにも、JTのあらゆるCSR活動を止めさせるよう、政府は、国際条約順守義務に従い、速やかに実効のある対策を講ずるべきである。

表2 テレビドラマにおける喫煙関連描写に関する調査研究

各テレビドラマにおける喫煙場面、喫煙関連場面、反禁煙場面、放送時間に占める合計喫煙描写時間の比率、喫煙描写回数、スポンサーとしてのJTの有無。各ドラマにより、合計喫煙関連時間、全放映時間に占める合計喫煙関連時間の比率、合計喫煙描写回数に大きな差がみられた

ドラマ名	全放映時間	a.喫煙場面		b.喫煙関連場面		c.反喫煙場面		合計喫煙関連時間(a+b)	全放映時間に占める合計喫煙関連時間の(a+b)比率(%)	合計喫煙描写回数(a+b)	JTの有無
		時間	回数	時間	回数	時間	回数				
官僚たちの夏	540分00秒	18分26秒	48	20分39秒	100	0	0	39分43秒	7.4	148	無
任侠ヘルパー	594分00秒	18分37秒	52	4分30秒	34	6分16秒	62	23分07秒	3.9	86	無
コールセンター	540分00秒	43秒	2	3分14秒	9	46秒	4	3分57秒	0.7	11	無
科捜研の女	540分00秒	1分39秒	4	1分57秒	7	13秒	2	3分36秒	0.7	11	無
新・警視庁捜一課9係	594分00秒	1分3秒	5	2分15秒	15	0	0	3分18秒	0.6	20	無
救命病棟24時	594分00秒	1分3秒	3	1分35秒	4	0	0	2分38秒	0.4	7	有
ブザー・ビート	594分00秒	1分28秒	4	32秒	7	0	0	2分	0.3	11	無
オルトロスの子	486分00秒	1分31秒	2	0	0	5秒	2	1分31秒	0.3	2	無
華麗なるスパイ	540分00秒	59秒	2	0	0	0	0	59秒	0.2	2	無
ダンディ・ダディ?	432分00秒	0	0	41秒	4	0	0	41秒	0.2	4	無
恋してアクマ	540分00秒	0	0	20秒	2	0	0	20秒	0.1	2	無
こち亀	432分00秒	0	0	3秒	1	0	0	3秒	0	1	無
赤鼻のセンセイ	540分00秒	0	0	0	0	1分20秒	14	0	0	0	無
合計[平均]	[531分51秒]	45分29秒	122	35分46秒	183	8分40秒	70	91分13秒	[1.1]	305	-

全放映時間は放映回数×54分で算出

映画の喫煙シーンはタバコを吸う子どもを増やす

3 映画の喫煙シーンから子どもを守るために

要旨

1. 喫煙シーンのある映像作品を規制する国が増えている。
2. 映画の喫煙シーンが子どもに与える影響を考慮した作品づくりが求められる。
3. 喫煙シーンのある映画の鑑賞条件をGからPG12に変更すべきである。
4. 喫煙シーンのある映画の製作者は、タバコ会社からの利益供与がない旨を公示すること。
5. 喫煙シーンのある映画の上映時には、反喫煙CMを流すこと。

映画の喫煙シーンへの対応:海外の状況

インド¹⁴⁾では、中央映画認定委員会(CBFC)が、喫煙シーンのある映画の冒頭と喫煙シーン出現時に、タバコが有害であるというテロップを流すことを上映認定条件に定めている。CBFC委員長は「今後、タバコやアルコールの消費を促す映画は、認定を受けるためには、規定のテロップを流すか、そうしたシーンをカットするかのいずれかを行わなければならない」との立場である。

台湾では、2012年に、保健省が、2分ごとに喫煙シーンがある日本の人気アニメ「ワン・ピース」を例に挙げて、喫煙シーンのある子ども向け映像作品に対して、将来視聴制限のレーティングを行う意向を示した¹⁵⁾。喫煙シーンのある子供向けアニメでは、最初喫煙シーンにモザイクをかけていたが、視聴者の不評を買ったため、現在は放映の最初と最後に「タバコはからだに悪い」などの有害警告テロップを出している。

このように、欧米だけでなく、アジアの国々においても、喫煙シーンのある映像作品に対しては、様々な規制がかけられる時代となっている。

喫煙シーンのある映像作品をPG12に

ガンダムシリーズで有名なアニメーション作家富野由悠季氏は、「風立ちぬ」の喫煙シーン問題に対してこうコメントしている。

(「風立ちぬ」が)レーティングG(映倫レーティングの「どなたでもご覧になれます」)であるからには、表現の仕方にもそれに見合うものが要求され



図10 映画倫理委員会の鑑賞条件の区分
<http://www.eirin.jp/see/>

ます。これは作家を邪魔するものでもなんでも無く、当たり前のことです。そういう意味では、今回の一件に関して、日本の映画倫理委員会には責任があると言わざるを得ません。ジブリ作品だから全部レーティングG(図10¹⁶⁾)という判断は、正直今の日本の姑息主義を反映するものがあると感じます。仮にPGならば、誰も文句を言わないのでしょ。 (太字引用者。括弧内は引用者追加)

つまり喫煙シーンのある映画作品を、子どもに見せる場合に十分な制度的配慮(保護者と一緒に見る(=PG12)、喫煙の有害性に関する警告を上映時に行うなど)をするのが当然であると主張している¹⁷⁾。

映画の喫煙シーンをなくするための4項目要求

スモークフリームービーを運営しているカリフォルニア州立大学サンフランシスコ校のグランツ教授は、映画の喫煙シーンを規制するために4項目の要求を映画産業と映画製作者に対して行っている⁸⁾。概略を以下に示す。

1. 喫煙シーンのある映画を「R」指定*とすること。
タバコそのものあるいはタバコを連想させるシーンのある映画を「R」指定とすること。タバコの有害性あるいはタバコ使用の健康影響を明確に表現している場合および喫煙者である過去の歴史上の人物を描くうえで必要な場合はその限りでない。(* R指定 = 17歳未満児の視聴に保護者同伴が必要)

2. タバコマネーと無縁であることを言明すること。
タバコあるいはタバコ使用シーンのある映画のプロデューサーは、それと引き換えにいかなる利益(現金、無料タバコ、無料宣伝、無税ローン等)もタバコ会社から受け取っていない旨をエンドロールに明示すること。

【現状】タイム・ワーナー社は、2008年に「この映画のいかなる関係者あるいは関係組織も、映画中のタバコ製品の出現の見返りとして金品の授受あるいは契約による利益供与を受けていない」という文言をエンドクレジットに表示することを決めた。

3. 強力な禁煙広告を行うこと。アメリカ映画協会のレーティングにかかわらず、喫煙シーンのある映画を上映する前に効果のあることが証明されている禁煙コマーシャル(タバコ会社の制作したものではなく)を放映するなどの手段で禁煙の必要性の周知を図ること。

【現状】ワインスタイン社など主要な6つの映画制作会社では、American Legacy Foundationあるいはカリフォルニア州の制作した有効性の証明された禁煙スポットを放映しているが、映画館では行われていない。ディズニー社とタイム・ワーナー社は「R」指定あるいは「若者向け」のDVDにこの禁煙スポットを入れている。

4. タバコの銘柄が特定できないようにすること。特定のタバコの銘柄がわかるような、あるいはそれを連想させる(看板)を映画シーンに映し込まないようにすること。

わが国でも、喫煙シーンのある映画では、未成年者視聴制限、上映前後の禁煙メッセージ、タバコ産業との利害関係の有無の申告などが当面の要求課題となるだろう。

また、タバコ産業のCSR活動の禁止を徹底させ、タバコ産業と映像メディア、文化人とのつながりを断ち切り、喫煙シーンが未成年者に及ぼす影響を考

慮した創作活動が推進されるようにすることも重要と思われる。

結 論

1. タバコは先進国の早死と健康寿命短縮最大の原因である。
2. 映画の喫煙シーンを見た子どもほど、タバコに手を出すようになる。
3. アメリカでは、子どもの喫煙開始の44%が映画の喫煙シーンが原因。
4. 映画の喫煙シーンを減らすことが、子どもの喫煙開始ひいては予防可能な早死を減らす重要対策である。
5. タバコ産業のプロダクト・プレイスメントが映画の喫煙シーンを増やしてきた歴史がある。
6. タバコ産業のプロダクト・プレイスメントの禁止が必要。
7. タバコ産業のCSR活動も、映画の喫煙シーン増加の一因と考えられる。
8. 喫煙シーンのある映像作品を規制する国が増えている。
9. 映画の喫煙シーンが子どもに与える影響を考慮した作品づくりが求められる。
10. 喫煙シーンのある映画の鑑賞条件をGからPG12に変更すべきである。
11. 喫煙シーンのある映画の製作者は、タバコ会社からの利益供与がない旨を公示すること。
12. 喫煙シーンのある映画の上映時には、反喫煙CMを流すこと。

引用文献

- 1) Ikeda N, Inoue M, Iso H, et al: Adult Mortality Attributable to Preventable Risk Factors for Non-Communicable Diseases and Injuries in Japan: A Comparative Risk Assessment. PLoS Med 2012; 9: e1001160.
- 2) Dalton MA, Sargent JD, Beach ML, et al: Effect of viewing smoking in movies on adolescent smoking initiation: a cohort study. Lancet 2003; 362: 281-285.
- 3) Smoke Free Moviesのホームページ:
<http://www.smokefreemovies.ucsf.edu/Presentations/SmokingInMovies-The%20Science.ppt> より2013年10月10日にダウンロード。
- 4) Sargent JD, Beach ML, Dalton MA, et al: Effect of seeing tobacco use in films on trying smoking among adolescents: cross-sectional study. BMJ

- 2001; 323: 1394-1397.
- 5) Sargent JD, Beach ML, Adachi-Mejia AM, et al: Exposure to movie smoking: its relation to smoking initiation among US adolescents. *Pediatrics* 2005; 116: 1183-1191.
 - 6) MMWR : Smoking in Top-Grossing Movies - United States, 2010.
<http://www.cdc.gov/mmwr/preview/mmwrhtml/mm6027a1.htm> より2013年10月10日にダウンロード。
 - 7) Morgenstern M, Sargent JD, Engels RC, et al: Smoking in movies and adolescent smoking initiation: longitudinal study in six European countries. *Am J Prev Med* 2013; 44: 339-344.
 - 8) Smoke Free Movies <http://www.smokefreemovies.ucsf.edu/problem/index.html> より2013年10月10日にダウンロード。
 - 9) Charlesworth A, Glantz SA. Smoking in the movies increases adolescent smoking: a review. *Pediatrics* 2005 ; 116: 1516-1528.
 - 10) Mekemson C, Glantz SA. How the tobacco industry built its relationship with Hollywood. *Tob Control* 2002; 11 Suppl 1: 181-191.
 - 11) <http://legacy.library.ucsf.edu/tid/hlm56b00/pdf> より2013年10月10日にダウンロード。
 - 12) 黒山政一, 相沢政明, 林沙世, ほか: テレビドラマにおける喫煙関連描写に関する調査研究. *日本禁煙学会誌* 2011 ; 6 : 16-20.
 - 13) JTの主催するイベントや「社会貢献活動」はぜんぶ国際条約違反なんだって? : 日本禁煙学会ホームページ : http://www.nosmoke55.jp/action/1205jt_csr.html より2013年10月10日にダウンロード。
 - 14) <http://indonews.jp/2012/01/post-5496.html> より2013年10月10日にダウンロード。
 - 15) <http://www.hpa.gov.tw/BHPNet/English/NewsShow.aspx?No=201209170001> より2013年10月10日にダウンロード。
 - 16) 映画倫理委員会の鑑賞条件の区分 <http://www.eirin.jp/see/> より2013年10月10日にダウンロード。
 - 17) <http://kaito2198.blog43.fc2.com/blog-entry-1329.html> より2013年10月10日にダウンロード。

文末資料

JTのCSRイベントおよび関連事業名(2012年時点)¹³⁾

- ・ JT サ ン ダ ー ズ <http://www.jti.co.jp/knowledge/thunders/index.html>
- ・ JT マ ー ヴ ェ ラ ス <http://www.jti.co.jp/knowledge/marvelous/index.html>
- ・ ゴ ル フ 日 本 シ リ ー ズ JT カ ッ プ <http://www.jti.co.jp/knowledge/jtcup/index.html>
- ・ JT 将 棋 日 本 シ リ ー ズ <http://www.jti.co.jp/knowledge/shogi/index.html>
- ・ ひろえば街が好きになる運動 <http://www.jti.co.jp/sstyle/manners/clean/index.html>
- ・ JT フォーラム <http://www.jti.co.jp/knowledge/forum/>

- ・ [index.html](http://www.jti.co.jp/knowledge/arthall/index.html)
- ・ JT アートホール・アフィニス <http://www.jti.co.jp/knowledge/arthall/index.html>
- ・ アフィニス文化財団 <http://www.affinis.or.jp/>
- ・ たばこと塩の博物館 <http://www.jti.co.jp/Culture/museum/index.html>
- ・ JT の テ レ ビ CM <http://www.jti.co.jp/knowledge/tvcm/index.html>
- ・ JT 生命史研究館 <http://www.brh.co.jp/>
- ・ JT の 森 <http://www.jti.co.jp/csr/forest/index.html>
- ・ J 亭 落 語 会 <http://www.jti.co.jp/knowledge/arthall/performance/rakugo/index.html>
- ・ JT NPO 助成事業 <http://www.jti.co.jp/csr/contribution/social/npo/index.html>
2012年度助成先一覧表 ↓
(45団体 総額 57,280,092円)
http://www.jti.co.jp/investors/press_releases/2012/0328_01/appendix_01/index.html
- ・ JT アジア奨学金制度 <http://www.jti.co.jp/csr/contribution/social/scholarship/outline/index.html>
- ・ スポーツ教室 <http://www.jti.co.jp/csr/contribution/social/sports/index.html>
開催教室一覧 ↓ <http://www.jti.co.jp/knowledge/thunders/school/2011/index.html>
- ・ JT シチズンシップ・イベント <http://www.jti.co.jp/knowledge/arthall/performance/contribution/index.html>
開催イベント一覧 ↓ <http://www.jti.co.jp/knowledge/arthall/kouen/index.html>
- ・ 児童労働問題への取り組み http://www.jti.co.jp/csr/contribution/social/child_labor/index.html
- ・ JT グループ企業(10企業) <http://www.jti.co.jp/corporate/outline/group/index.html>
- ・ JT の ロゴ 入 り アイテムの頒布 http://www.jti.co.jp/knowledge/thunders/news/2009/11_03/
- ・ 路上喫煙スペースの提供事例一覧 ↓ <http://www.jti.co.jp/sstyle/manners/bunen/jirei/collabo/jireishu/02/index.html>
- ・ オフィス喫煙スペースの提供事例一覧 ↓ <http://www.jti.co.jp/sstyle/manners/bunen/jirei/office/list/index.html>
- ・ 商業施設の喫煙スペース提供一覧 ↓ <http://www.jti.co.jp/sstyle/manners/bunen/jirei/institution/list/index.html>
- ・ 飲食店の分煙スペース提供一覧 ↓ <http://www.jti.co.jp/sstyle/manners/bunen/jirei/restaurant/special/01/index.html>
- ・ 駅の喫煙スペース <http://www.jti.co.jp/sstyle/manners/bunen/jirei/station/jireishu/index.html>
- ・ 空港の喫煙スペース <http://www.jti.co.jp/sstyle/manners/bunen/jirei/airport/jireishu/index.html>
- ・ その他の喫煙スペース <http://www.jti.co.jp/sstyle/manners/bunen/jirei/other/jireishu/index.html>
- ・ スタンド灰皿等寄贈「JT 灰皿 寄贈」で google 検索28,700件ヒット(2012年4月)
http://www.jti.co.jp/investors/press_releases/2009/0709_01/appendix_01/